

刊日

岩手新聞

社開新常所行發
九五町南町年縣島臨
次 縣 藤 伊 人行發
一 遊 古 町 濱 名 小 縣 島 臨

刊夕日八十月六

一ヶ月 三十錢
一 部 二 錢
廣 告 料 一 行 五 十 錢
場 所 指 定 十 錢 増
日 曜 祭 日 翌 日 休 刊

場のことになり現在在は荷揚
の岸壁に機械をはづして
浮かせてある。
その一方カムチャツカ、
千島方面出漁船は種々の
噂あつたが漁況すばらしく
良好にて昨年と比較して大
變好成绩の報あり禁漁期
利用の開拓面を物語つてゐ

地方名士

長所と短所

管見
太田勝康氏
(二十)

太田氏は三崎組々頭として、
小名濱港修築工事には偉其重厚なる行為には三つ兒
大なる功績を揚げた人でも、戯むると云ふた反面には
、氏を一口に批評したならぬ、小兒の如く柔
らば、發言重厚にして接するに、太田氏の言は神の如く
ものをして、期せず頭の下の尊重する處に、氏の容貌は
を覺へせしむると言ふた如く、不言之内に物語る
宗高なる人格の所有者たる何物かがある。

濱だより

(十七日分)
小名濱 魚市場調査
魚名 魚獲高 單價割
カツオ 八百五十本 九、五〇
メンバ 八百六十本 十一、五
サバ 八百本 一、八〇圓
アジ 卅本 九、五〇圓
入港船
カツラ船 二
大敷船 四
他陸送物 二口

魚市場隣 道路 舗装實地測量

今日小野町長指揮

本日前九時頃から小名濱實習室の方を校舎と切離し
濱漁市場隣接の試験場敷地にて先に行ふことになり六月
側道路舗装工事設計の爲、廿日着工することになった
小野町長並に柳内土木主任 工費は五百圓であるが内二
水野漁業組合長等が實地測量 百圓は漁業組合の寄附であ
量を行つた。
同工事は大体三千圓の見 多少特志者の寄附でやる様
込でやるが四分の一は縣補 助を受ける豫算。
尙殘費は漁業組合魚市場 水工、その他漁業関係者より寄附を集め町經營でやることになつてゐる。

地元漁業家の努力

中之作港折戸地内 凌せつ着々進捗

江名町中之作港築港事業は地元民の一致協力振りを
第一期工事は愈々今月一杯見せてゐる、今回の凌渡工
で終ることになるが此の工事に依り折戸地内の船着場
事で取残された不十分な部岸壁が出来上れば船着場
分多く第二期工事は常廻船とどん／＼入れること
分見込かざる爲江名漁業になり従來の荷揚場が底曳
組合では折戸船着場岸壁の船で満員になつてゐる時
凌渡を爲すことになり千圓 様な不便は一掃されること
を工事に寄附して便宜上になり非常に得策な譯であ
町の名目で行ふことになり

青年学校の魁

江名水産實習室着工

江名町小學校舎増築は十 去日來凌渡工事をやつて
二百圓の起債でやる事になるがこれが爲地元船主と中
たが校舎の方は起債の都 之作漁業組合等協力して竣
合と認可が遅れるので水産 務人夫を出して居り、美し

東北六縣耕地協會の 東北救済兩對策

去日聯合會で決定

東北六縣の耕地協會では未だ安心しては不可
聯合會を組織して東北救済ない。
日午前十時東京赤坂三會堂 町役場ではこれが撲滅に必
に協會六縣代表者が參集協 議の結果災害防止農村振興
の兩對策に就き細部案を決 議の無のに因感してゐた
同日午後二時山内青森縣 議長に代表者が戸田農務局長
長を農林省に訪問して陳情 書を提出、一日も早く實施
三日間久保田醫院で施行 してゐる。此の際徹底的に
一回受けたものも受けない ことにすれ

チフス患者 死亡と全快退院

死亡と全快退院
囊にチフスで隔離病舎に 收容された小名濱町字定西
一番地(非番)は十五日 午前十一時死亡、
同じく收容された鎌田泰 松三氏は快癒著しく本日
明十九日頃退院の豫定であ
る。右に就いて役場衛生
主任は内服薬が多分に残つ
て居りますから時節柄どん
／＼服用して病菌の一掃を
計つて欲しいと語つてゐた

急告

本社營業部員 原田公民儀 去る八日入道野
方面に日刊贊助料集金の爲出張せしめ候處
既に十日間も経過し且つ見當違の泉方面の贊助を
受け居り、彼れ原田は歸宅の見込みなく存じ候に
付き讀者各位の御迷惑を考案し爾後原田公民儀の訪
問に對しては本社は何等の關係を持たざることを
茲に警告申上候
尙は被害讀者は恐縮には候へ共告誡の都合も之
有り彼訪問の際御贊助相成候方は端書にて御一
報願申上候 敬 具
日 常 磐 新 聞 社

磐城丸

漁況調査から
今晩歸る
水産試験場の磐城丸は六
日小名濱出港以來野島沖方
面の漁業状況調査に當つて
あつたが一向に見るべきもの
なくひと先づ今晩六時頃小
名濱に歸港の筈である。今
回は僅かに獲百本ほど
釣つたばかりで群は時々見
るのであるが御付きが悪く
氣壓七百五十一耗一

天気豫報

(十八日)
小名濱測候所發表
明日 南の風晴一時曇
小名濱昨日最高温度一九
度五分
氣壓七百五十一耗一

